



We Secure the Future

思いをかなえる 技術で見つめる 確かな未来

グローリー株式会社

www.glory.co.jp

有人宇宙機を本格開発



昨年、PDエアロスペースが単独で開発した試作機は全長1.4mの無人機

【用語】有人宇宙機Ⅱ 高度1000メートル以上の真空中に近い場所を飛行するの宇宙機で、そこに人間が搭乗すれば有人宇宙機とされる。人間が長期滞在できる宇宙ステーションなども含まれる。これに対し、同1000メートル未満を飛行するのが航空機。米国では民間企業による宇宙機開発が盛んで、すでに宇宙旅行も企画・販売されている。

PDエアロスペース

【名古屋】PDエアロスペース(名古屋市緑区、緒川修治社長、052・621・6996)は、有人宇宙機(用語参照)の本格開発に乗り出す。宇宙航空研究開発機構(JAXA)や筑波大学など7者と共同開発体を結成し、開発する。並行して開発資金調達のため海外企業などのスポンサー獲得も進める。2013年初をめどに試作機を製作、2014年中に有人宇宙機の完成を目指す。

14年めど5人乗り

JAXA などと共同 民間初の旅行視野

筑波大がエンジン、名大とCASTが機体、九州工大が飛行制御、IHIエアロスペース・エンジンアリングが設計、秋田産業技術総合研究センターが試作、JAXAが評価を担当する。まず2013年初をめどに8億円をかけ、全長3.5m、時速マッハ3、搭載能力300kgで、高度1000メートルの飛行ができる無人宇宙機を製作。2014年中にも約80億円を投じ、全長8.8mで高度1000メートルの飛行ができる5人乗りの有人宇宙機の完成を目指す。資金調達は経済産業省などの助成制度を利用するほか、スポンサー獲得を強化。

しかし、同社単独では限界があり、「強力なメンバーと組む」(緒川社長)ことで開発に弾みをつける。有人宇宙機が完成すれば、法律の整備を待って、民間企業による初の宇宙旅行も実現させたい考えだ。

現在、エンジン精機など6社のみだが、海外企業にも参加を呼びかける。PDエアロスペースはこれまで単独で有人宇宙機開発に挑戦し、08年に無人の試作機を完成した。試作機は全長1.4m、時速700〜800kmで高度1000メートル前後の飛行が可能。